

## 「ICT を活用した歩行者の移動支援に関する勉強会」(第 11 回)について

(国土交通省 政策統括官付)

国土交通省では、ICT を活用した歩行者の移動支援施策を一層推進し、今後の方向性について検討を行うため、平成 22 年 9 月より国土交通大臣政務官の主宰の下、「ICT を活用した歩行者の移動支援に関する勉強会」(座長：坂村健 東京大学大学院情報学環教授)を設置し、議論を行っています。

当該勉強会においては、「Gov2.0<sup>\*1</sup>の考え方に基づいて、障がい者を対象とした、歩行者移動支援の運用の仕組みづくりを進め、その中での国の役割を明確にする。」、「歩行者移動支援と歩行空間ネットワークデータ<sup>\*2</sup>の重要性について、地方公共団体等の認知度を向上させるため、普及啓発に取り組む。」という取組方針のもと、今後必要となる施策等について、委員の方々から様々なご助言、ご意見を頂いています。

この度、第 11 回勉強会が開催されましたので、ご紹介させていただきます。



第 11 回勉強会の開催状況

(左：挨拶する坂井大臣政務官 右：勉強会の様子)

### 【第 11 回勉強会 (平成 25 年 11 月 19 日開催) について】

第 11 回勉強会では、岩下委員、後藤委員、立松委員の 3 委員から「歩行者移動支援サービスの今後の普及に向けた基本的な方針等について」をテーマとしたご発表を頂いたのち、各委員の発表内容についての意見交換をしていただきました。

岩下委員からは、「障害者が利用するアプリケーションやハードについては、専用システムではなく汎用機器を利用できるよう、ユニバーサルデザインを踏まえて作成すべき。」などのご指摘がありました。

後藤委員からは、「歩行者移動支援に関する各府省の政策との連携や自治体等と市民の連携など、民・学・産・公の連携を積極的に図るべきである。」などのご指摘がありました。

立松委員からは、「東京オリンピック、パラリンピックに向けて、政府キャンペーンなどで「心のバリアフリー」を広めることが必要。」などのご指摘がありました。

また、意見交換においては、「個人情報保護の問題はあるが、災害時や緊急時においては、情報を共有し発信できる仕組み作りも必要である。」、「東京オリンピック、パラリンピックは障害者支援における重要なマイルストーンであり、歩行者移動支援施策に関する

るスケジュールの作成が重要である。」、「G8 サミット以降、オープンデータ<sup>※6</sup>という情報発信・情報公開に関する取組みへの意識が高まってきており、その役割分担についての議論が必要になってきている。」などの意見が出されました。

なお、会議資料及び議事概要は、以下のホームページに掲載しています。

【「ICT を活用した歩行者の移動支援に関する勉強会」ホームページ】

[http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/soukou/seisakutokatsu\\_soukou\\_fr\\_000002.html](http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/soukou/seisakutokatsu_soukou_fr_000002.html)

ICT 歩行者 検索

【問い合わせ先】

国土交通省 政策統括官付 TEL:03-5253-8794

ICT TOP ページ

[http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/soukou/sogoseisaku\\_soukou\\_mn\\_000002.html](http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/soukou/sogoseisaku_soukou_mn_000002.html)

ICT TOP 歩行 検索

注釈

※1 Gov2.0

米国のメディア企業オライリー・メディアの創設者であるティム・オライリーが提唱した概念であり、情報流通のために政府がプラットフォームとなる（government as a platform）ことを基本理念とする。

※2 歩行空間ネットワークデータ

歩行空間ネットワークデータとは、歩行経路を示す「リンク」とリンクの結節点である「ノード」によって構成されたデータ群。リンクには階段や段差、道幅等の経路情報が付与され、ノードには緯度経度や高さ等が属性情報として登録されている。各ノードには、公共基準点と同様の識別コード（Uコード）が付与され、多目的トイレなど様々な周辺情報と連動した情報サービスの提供が可能となる。